

# 「刈谷地域」における環境学習の推進について

メンバー：(10期) 志水剛、鈴木友代  
(11期) 鈴木英司  
(12期) 柳野康治



## ★現状

- 刈谷市は、市民における環境学習の機会の充実を図るため、平成29年度から「かりや環境学習ガイドブック」を発行し、様々なプログラムを掲載している。
- しかし、ガイドブックが「市民に浸透していない」、高校生や大学生などの「若者の参加が少ない」ことが課題。
- 市も解決策や相談先がわからず、苦慮している。
- また、持続可能な社会を支える人づくりとして、企業・行政・学校・地域が一体となった“連携協働型の環境学習の普及”を図る必要がある。

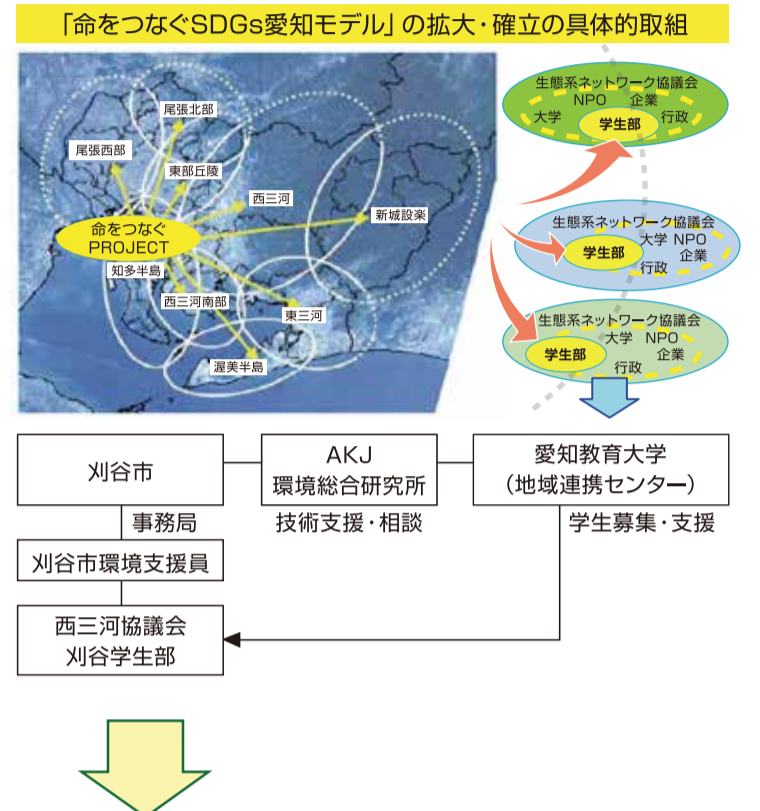


若者は環境学習に興味を持ってくれないなあ



## ★目指すべき姿

- 県のSDGs未来都市計画による「西三河生態系ネットワーク協議会」(市も参加)の学生部と愛知教育大学等と刈谷市がつながる。
- 若者による、若者向けの環境学習を刈谷市で実践。
- 刈谷市環境支援員の次世代育成。



ユース世代をつなぐ・つながる「場の提供」

## ★活動の内容

- 社会実証検証の場として、11月に刈谷市で開催する「Let'sエコアクション in AICHI」(県主催)で、あいち環境塾卒塾生がけん引しながら「愛知教育大学」、「知立東高校 自然科学部」と連携して環境学習を実施。  
【ビオトープ体験学習、生物多様性ゲーム】
- また、同時に、刈谷市における若者に対する環境学習を推進するために県、市の職員、「愛知教育大学」、「中部大学」、「知立東高校自然科学部」の学生・教員、「あいちサステナ研究所」(大学生)、AKJ及び卒塾生らで、ワークショップを実施し、解決策等を検討。卒塾生はファシリテーターとして参加。  
【テーマ：刈谷市の環境学習を普及せよ】



イベントチラシ



ビオトープ体験学習



地元高校生が作った生物多様性をテーマにしたゲームを体験



地元の大学生・高校生らと実施したワークショップ



参加いただいた刈谷市職員の方のワークショップ

## ★活動の成果・反省

- 11月の環境学習は、100名の参加で大盛況。参加者からの評価も好評であった。
- 特にスタッフとして参加してくれた大学生・高校生からは、「今後も積極的に参加したい」との声が聞かれた。
- また、刈谷市の職員の方にも参加いただき、環境学習の進め方を実感していただくことができた。
- 2月には11月のワークショップで出された意見を取りまとめ、刈谷市に提言書を手渡すことができた。
- イベントには大学、高校、県、市など多様な主体が参加したため、調整が非常に困難であった。しかし、それぞれのニーズをくみ取り、信頼関係を築きながら合意形成を図ることができた。



市への提言書の提出

行政等との折衝能力とファシリテーション能力のスキルUP

## ★今後の展開

- 1 提言書をもとに、ユース世代が参加したくなる環境学習を刈谷市とともに作り上げていく。
- 2 刈谷市で、今回連携した大学、高校のほか、「西三河生態系ネットワーク協議会」の学生部などのユース世代と一緒に「SDGsユース会議」を開催し、『ユース世代をつなぐ・つながる「場の提供」』の具体的なプランを構築する。

各主体・各世代が連携した環境学習